（２）流　況

①　調査時期

ア　25 時間調査

令和７年３月１日～３月２日（月 齢 1.1～2.1）

イ　15 日間調査

令和７年２月 15 日～３月２日

②　調査地点

図１に示す St. １～４の計４地点

③　調査方法

ア　25 時間調査

図１に示す St. １～４の計４地点において，表層(１m深)に電磁流速計を係留し，流況を 25 時間連続測定した（図９）。

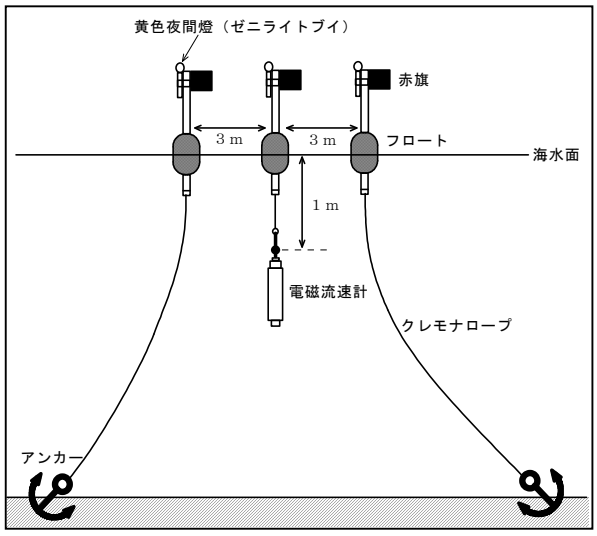


図９　25 時間調査概略図

イ　15 日間調査

図１に示す St. ２の表層(１m深)，底層（14m深）に電磁流速計を係留し，流況を 15 日間連続測定した(図 10)。

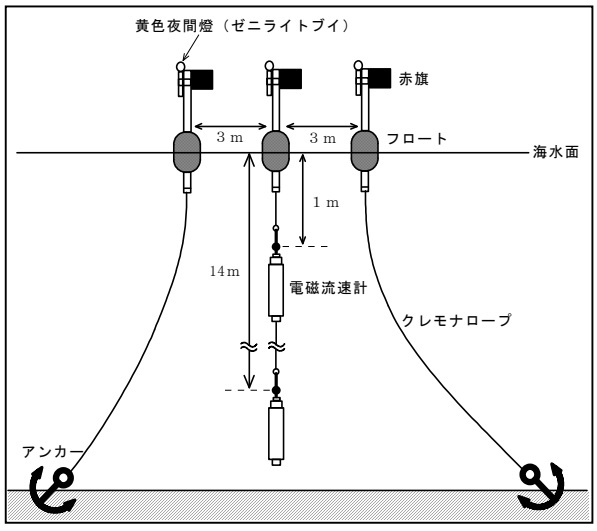


図 10　15 日間調査概略図

③　調査結果

ア　25 時間調査（令和７年３月１日～２日，St．１～４）

(ｱ) 毎時流ベクトル経時変化（表層：１m深）

全ての地点でおおむね南北方向に半日周期の変動がみられた。

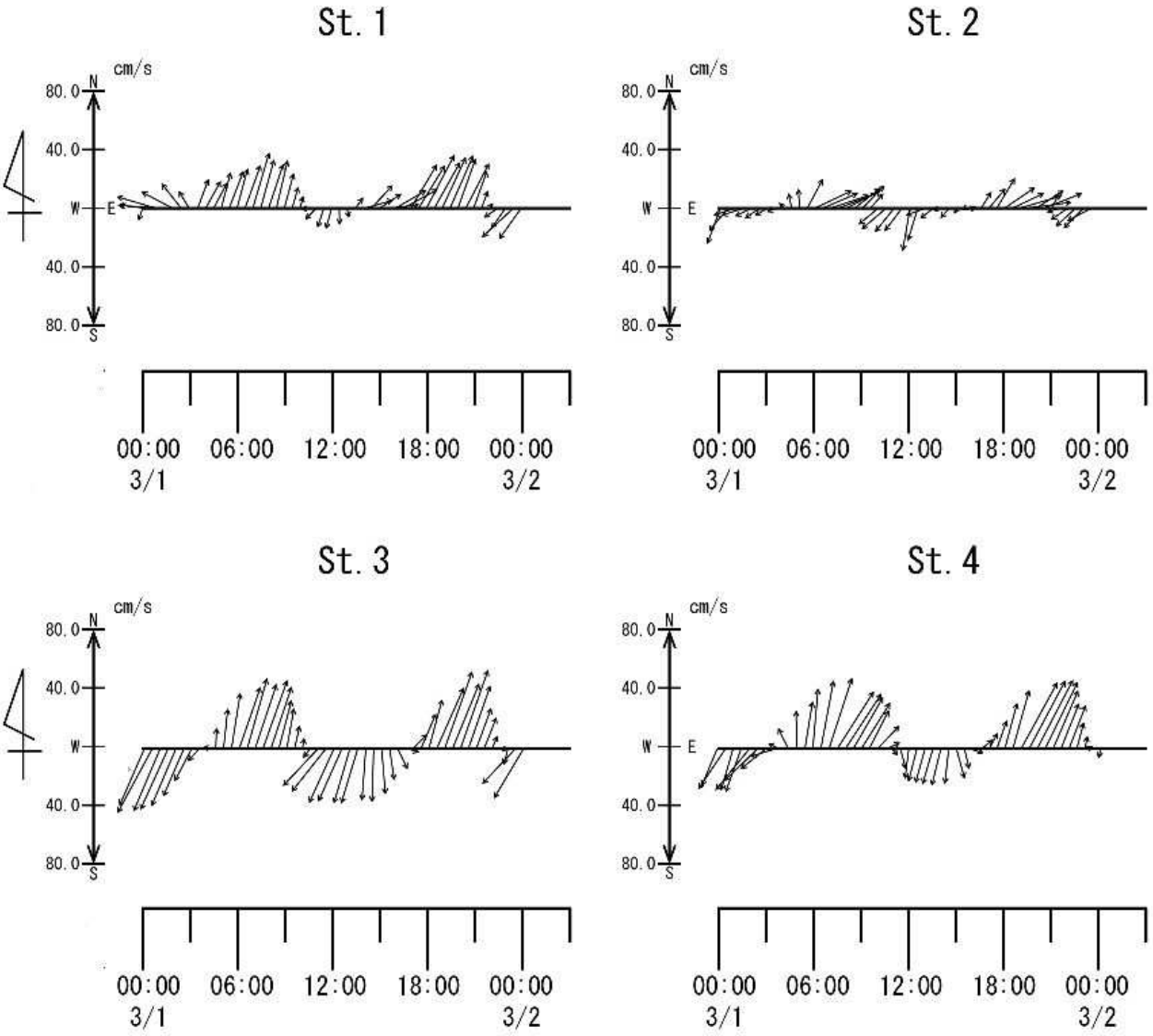
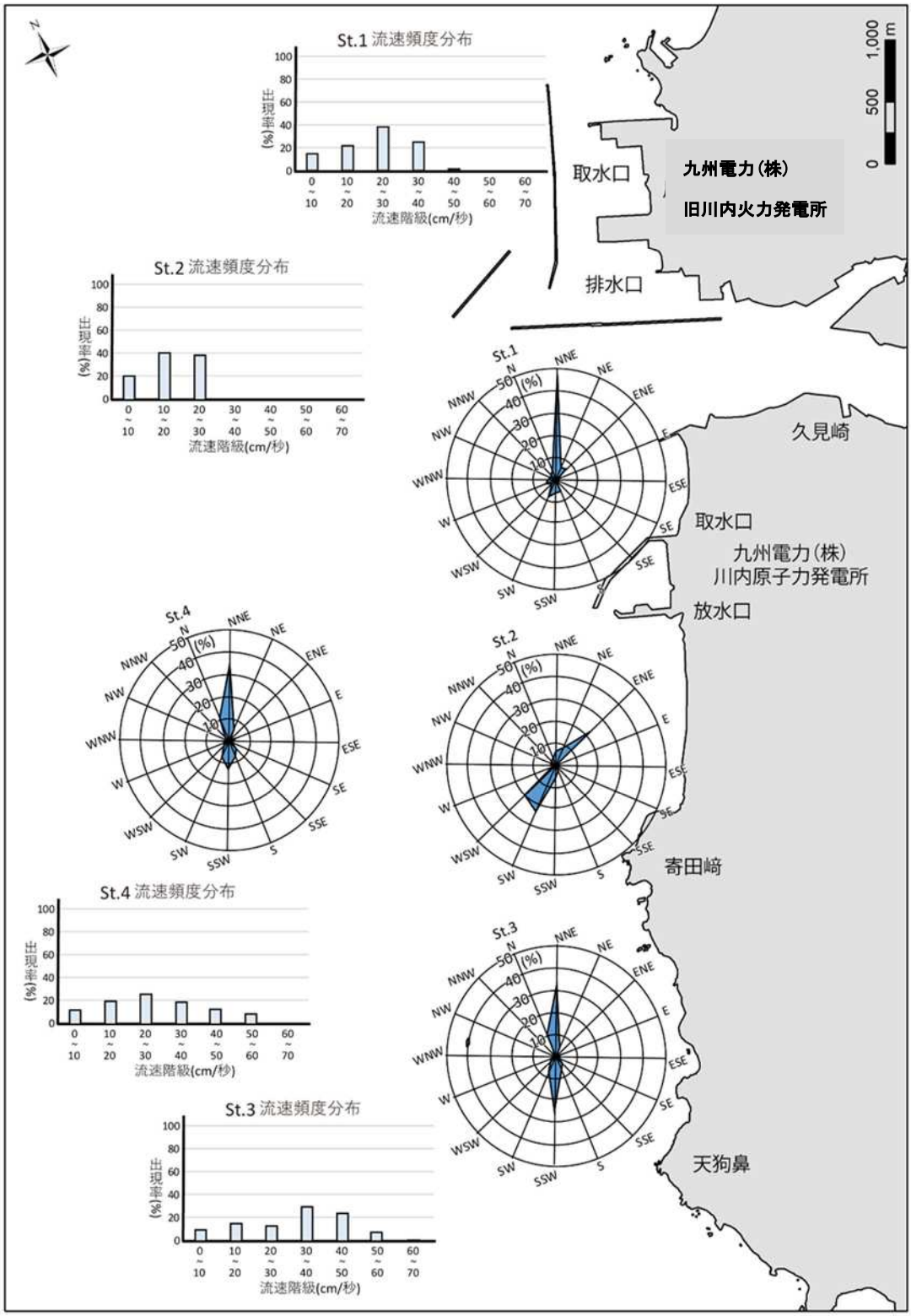


図 11-1　25 時間調査結果（毎時流ベクトル経時変化）

(ｲ) 表層(１m深)流向・流速別頻度分布

最多出現流向は St.１では北北東，St.２では南西，St.３，４では北北東であり，最多出現流速分布は St.１，４では 20～30cm/秒，St.２では 10～20cm/秒，St.３では 30～40cm/秒であった。



※S57～R4 までの最多出現流速分布範囲 St.１：0～40cm/秒，St.２：0～70cm/秒，St.３：0～60cm/秒，St.４：0～80cm/秒

図 11-2　25 時間調査結果（流向・流速頻度分布）

(ｳ) 表層(１m深)流向別平均流速分布

平均流速は St.１，３，４では北北東，St.２では東が大きく，17.0～31.8cm/秒の範囲であった。

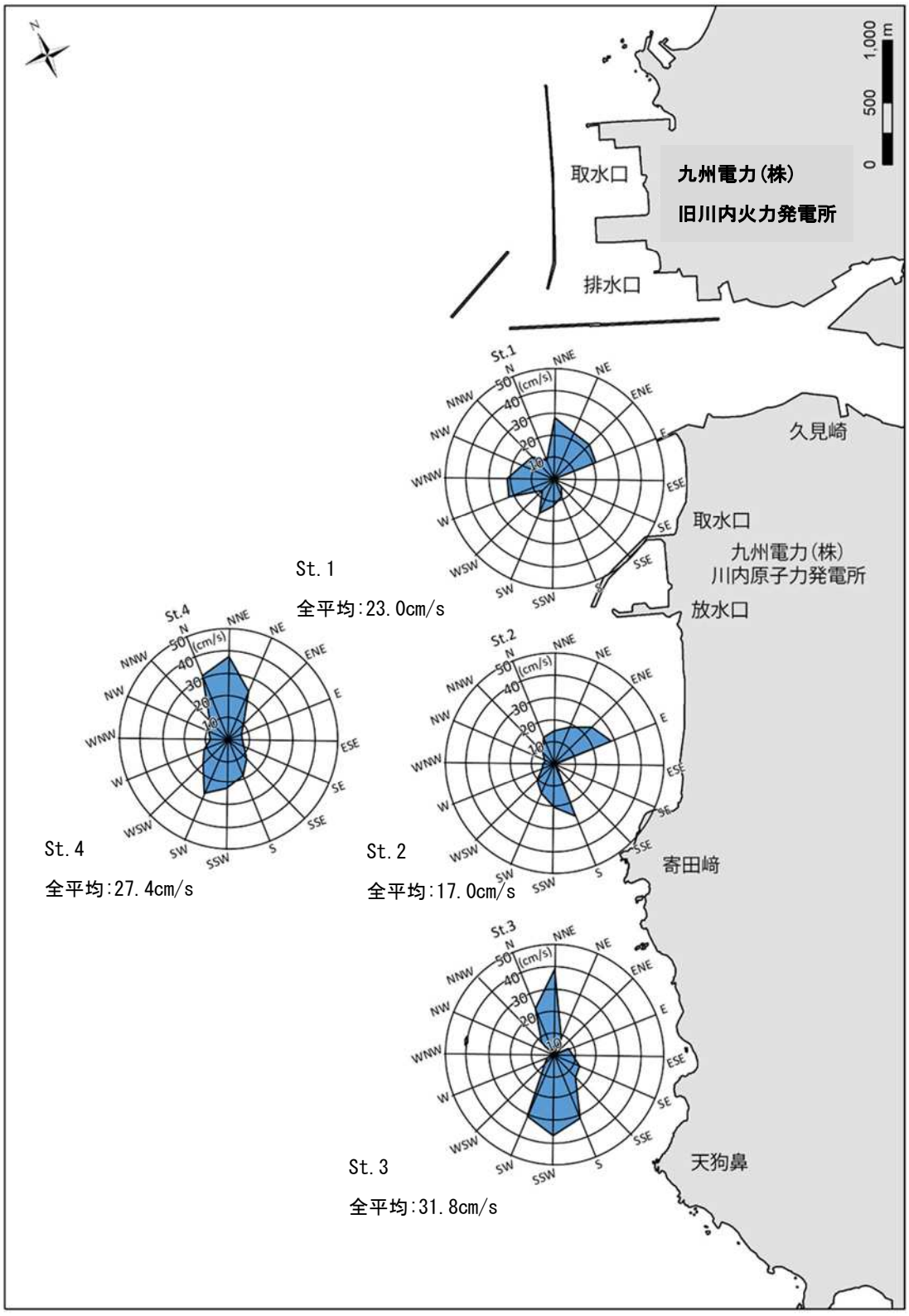


図 11-3　25 時間調査結果（流向別平均流速分布）

イ　15 日間調査（令和７年２月 15 日～３月２日，St. ２）

(ｱ) 毎時流ベクトル経時変化（表層：１ｍ深）

おおむね全期間で南北方向に半日周期の変動がみられた。25 時間移動平均ベクトルから，２月 16 日～24 日，26 日におおむね南方向の流れが卓越していた。

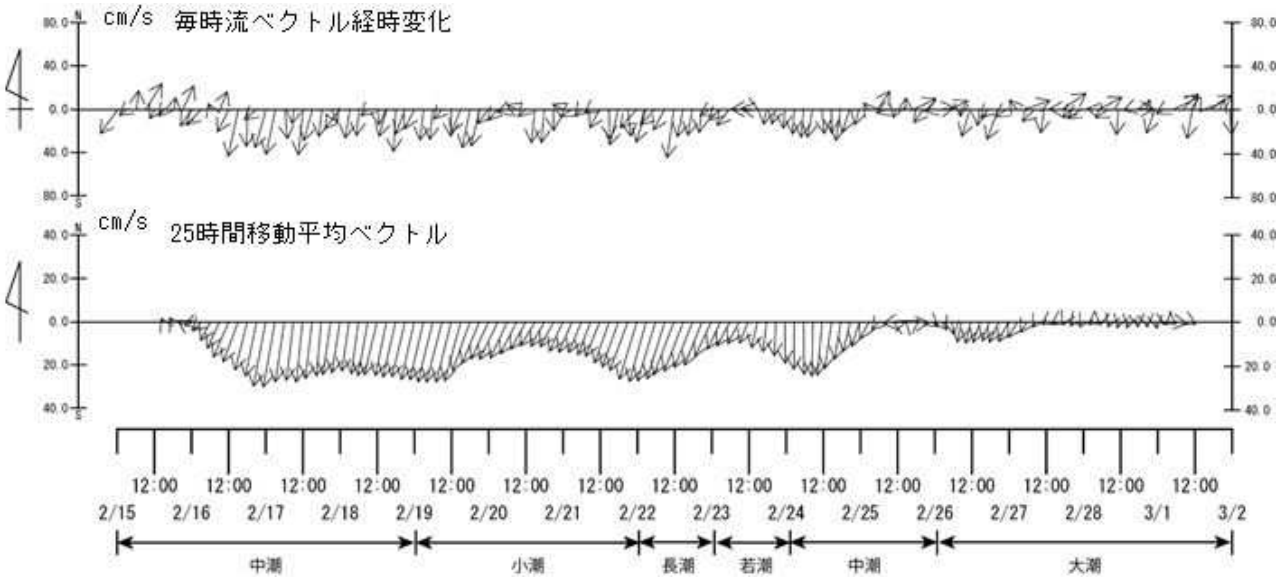


図 12－１　15 日間調査結果（表層：1m 深）（毎時流ベクトル経時変化）

(ｲ) 毎時流ベクトル経時変化（底層：14ｍ深）

おおむね全期間で南北方向に半日周期の変動がみられた。

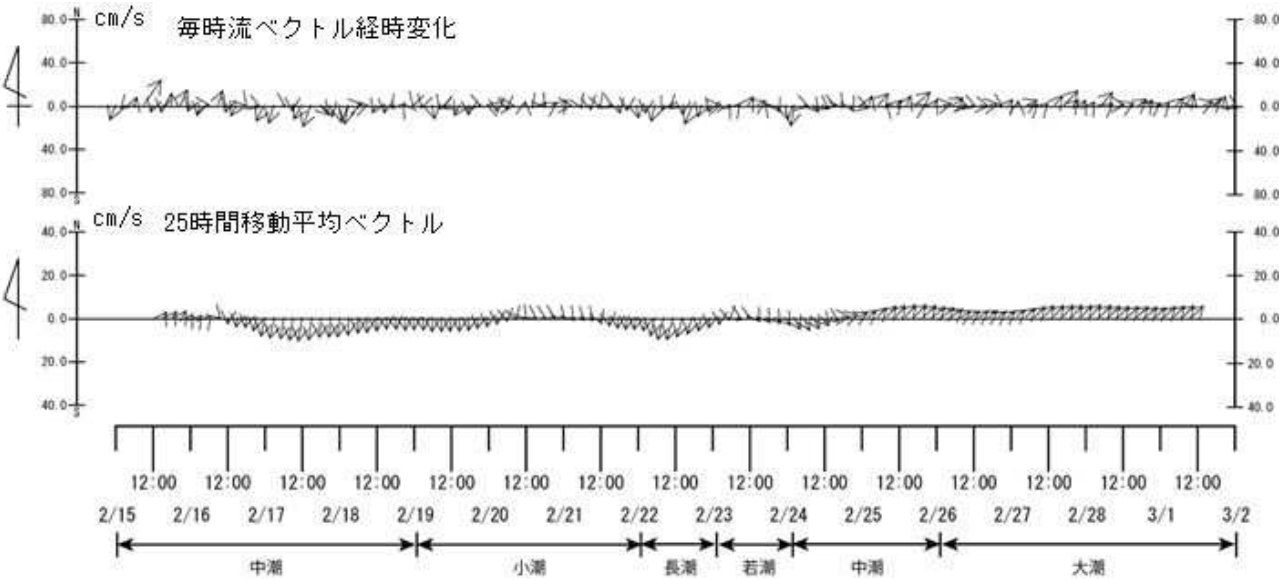
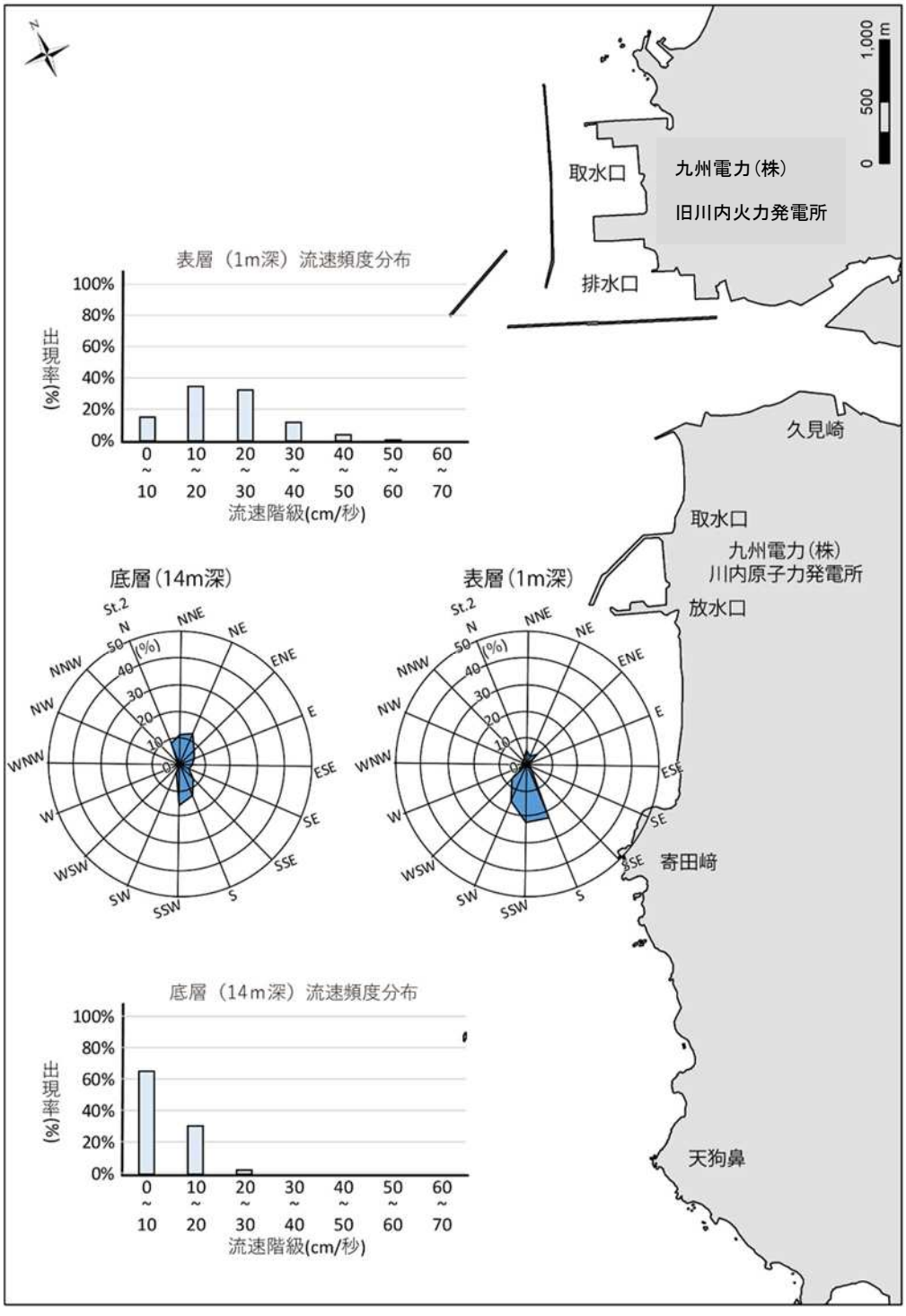


図 12－２　15 日間調査結果（底層：14m 深）（毎時流ベクトル経時変化）

(ｳ) 流向・流速別頻度分布（表層：１ｍ深，底層：14m深）

最多出現流向は表層（１ｍ深）は南及び南南西，底層（14m深）では南南西であり，最多出現流速は表層（１ｍ深）では 10～20cm/秒，底層（14m深）では 0～10cm/秒であった。



※S57～R4 までの最多出現流速分布範囲 表層(１ｍ深)：0～40cm/秒，底層(14m深)：0～30cm/秒

図 12-3　15 日間調査結果（流向・流速頻度分布）

(ｴ)流向別平均流速分布

平均流速は表層（１ｍ深）は南，底層（14m深）は南南西が大きく，表層（１ｍ深）では20.6cm/秒，底層（14m深）では8.5cm/秒であった。

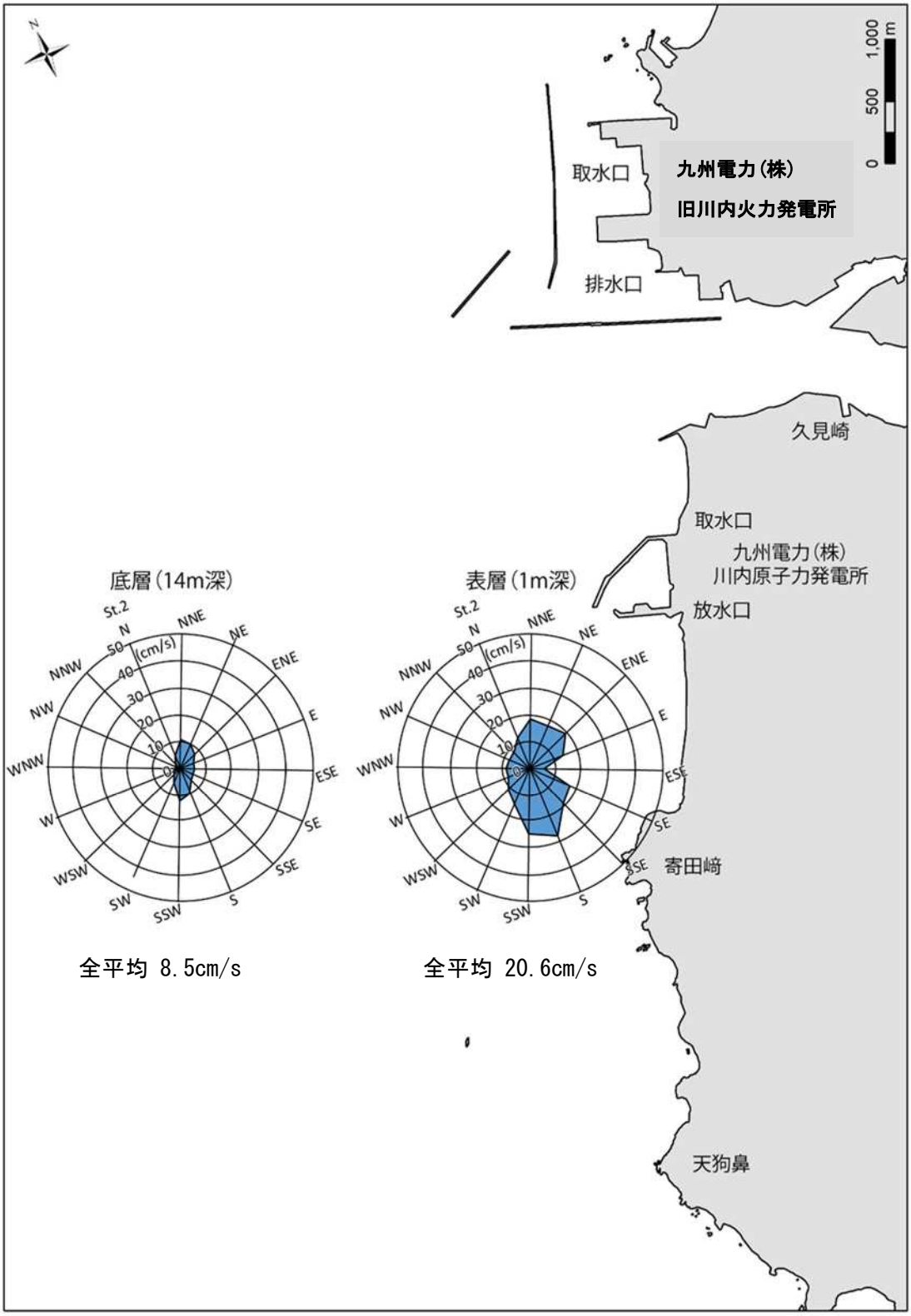


図 12-4　15 日間調査結果（流向別平均流速分布）

2　令和6年主要魚類及び漁業実態調査結果

（1）調査の方法

①　イワシ類（シラス）調査

川内市漁協におけるバッチ網漁業の年間の漁獲量を把握するとともに，同漁協に所属するバッチ網漁船５統のうち１統を標本船として，銘柄別漁獲量，イワシ類の魚種割合，漁場，操業回数などの日別漁獲状況を操業日誌の記帳により調査した。

（バッチ網の操業許可期間　１～12 月　周年）

②　マダイ・チダイ調査

川内市漁協におけるごち網漁業の年間の漁獲量を把握するとともに，同漁協に所属するごち網船５隻のうち２隻を標本船として魚種別漁獲量などの日別漁獲状況を調査した。

（ごち網の操業許可期間　４～12 月）

（2）調査の結果

①　イワシ類（シラス）調査

ア　漁獲量

（ア）　川内市漁協の平成 17 年から令和５年までの漁獲量は，15 トンから 926 トンの間で推移し，令和６年は 42 トンであった。

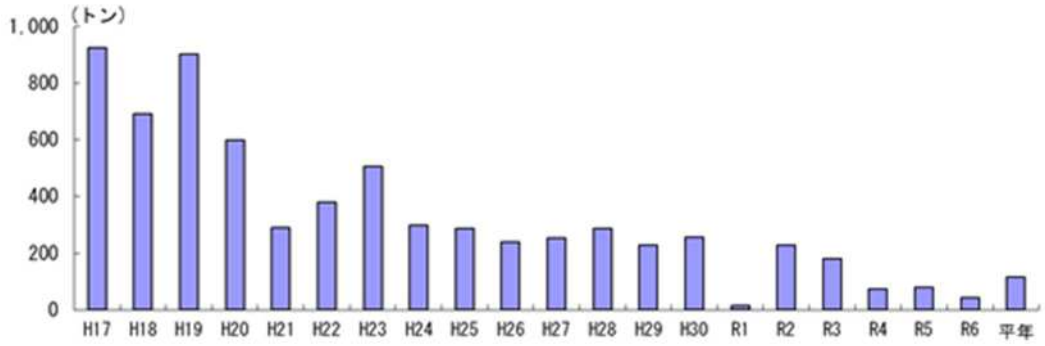


図 13-1　川内市漁協バッチ網漁業の年別漁獲量

※平年値は過去５年平均値　　※S60～R5 までの範囲：15～2,239 トン

（イ）　バッチ網標本船における平成 17 年から令和５年までの漁獲量は 7.9 トンから 303.1 トンの間で推移し，令和６年は 16.4 トンであった。

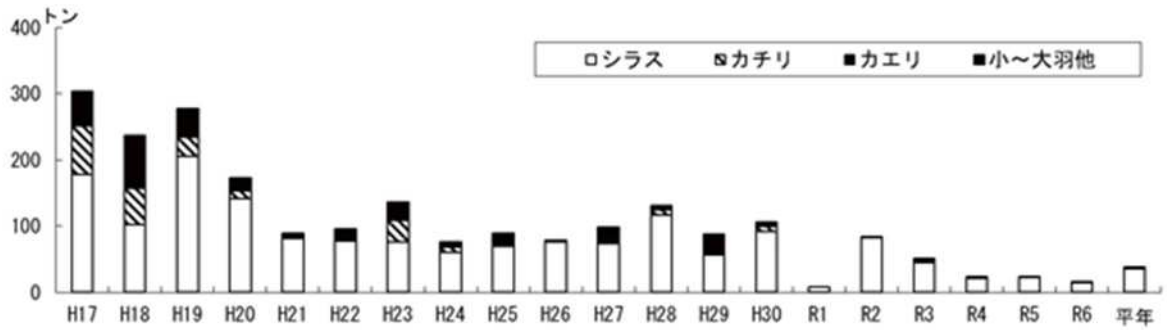


図 13-2　バッチ網標本船の年別漁獲量

※平年値は過去５年平均値　　※S60～R5 までの範囲：7.9～600.8 トン

イ　銘柄別組成

バッチ網標本船における令和６年の漁獲物の銘柄別組成では，シラスが 90.0%，その他が 10.0%であった。

表３　令和６年バッチ網標本船の月別銘柄別漁獲量　　（単位　漁獲量：トン，漁獲割合：%）

月	操業日数	操業回数	漁獲量					漁獲割合			
			シラス	カチリ	カエリ	小～大羽他	合計	シラス	カチリ	カエリ	小～大羽他
1	2										
2	3										
3	3										
4	5	3	0.9			0.1	1.0	90.4			9.6
5	3										
6	6	10	13.8			1.5	15.3	90.0			10.0
7	3										
8	4										
9	5										
10	4										
11	4										
12	3										
計	45	13	14.7			1.6	16.4	90.0			10.0

ウ　月別漁獲量

バッチ網標本船における令和６年の月別漁獲量は，６月が 15.3 トンで最も多く，次いで４月が 1.0 トンであった。

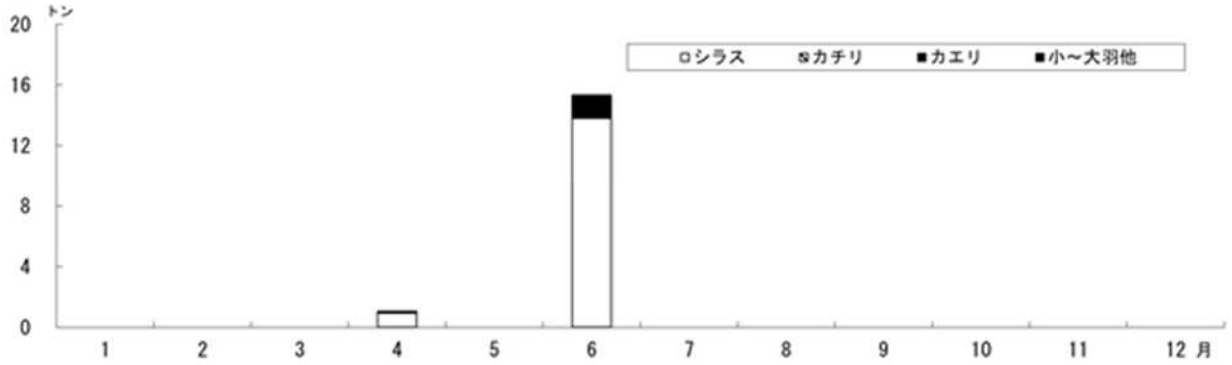


図 13-3　令和６年バッチ網標本船月別銘柄別の漁獲量

エ　魚種別組成

バッチ網標本船における令和６年のイワシ類の魚種別組成は，カタクチイワシが 90.0%，その他が 10.0%で，カタクチイワシの割合が最も高かった。

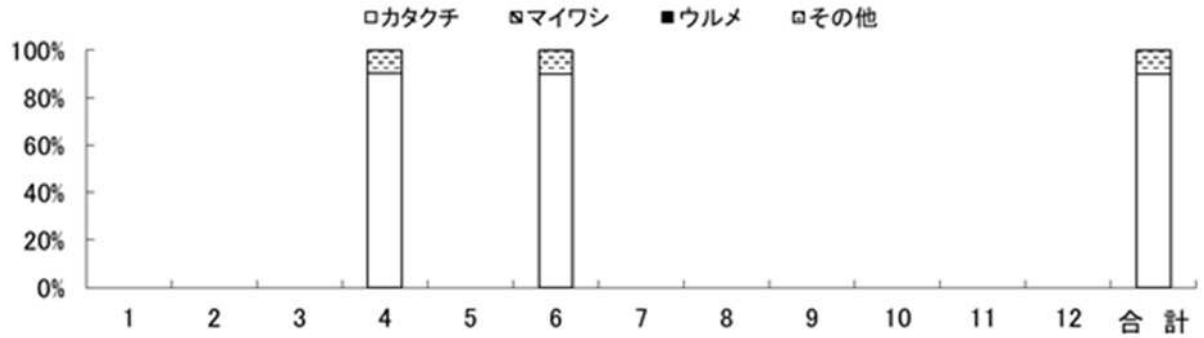


図 13-4　令和６年バッチ網標本船の月別魚種別組成

② マダイ・チダイ調査

ア 漁獲量

（ア） 川内市漁協における平成 17 年から令和５年までのごち網の漁獲量は，25 トンから 106 トンの間で推移し，令和６年は 16 トンであった。

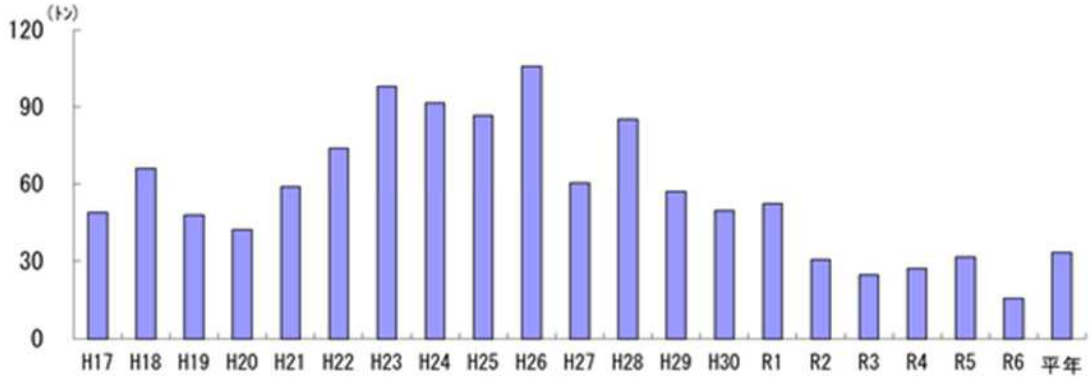


図 14-1 川内市漁協ごち網漁業の年別漁獲量

※平均値は過去５年平均値 ※S60～R4 までの範囲：25～127 トン

（イ）ごち網標本船２隻における平成 17 年から令和５年までのマダイ・チダイ漁獲量は，5,041 kgから 14,495 kgの間で推移し，令和６年は 1,956kg であった。

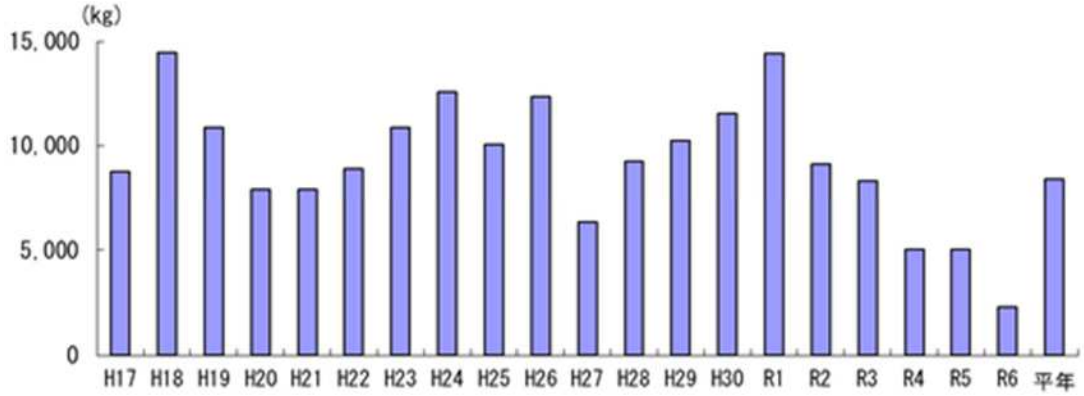


図 14-2 ごち網標本船マダイ・チダイ漁獲量の推移

イ マダイ・チダイ別漁獲量

ごち網標本船２隻における令和６年のマダイとチダイの漁獲量を比較すると，マダイが 1,892 kg，チダイが 64kg で，例年どおりマダイの割合が高かった。

表４ 令和６年ごち網標本船月別魚種別漁獲量（単位：kg）

月	操業日数	マダイ	チダイ	タイ類小計	その他	合計
4月	26	533	42	575	238	813
5月	12	250	13	263	25	288
6月	14	589	5	593	50	643
7月	11	121	4	125	9	134
8月	12	276	1	277	2	279
9月	6	53	0	53	6	58
10月	1	4	0	4	0	4
11月	1	46	0	46	0	46
12月	2	21	0	21	6	28
合計	85	1,892	64	1,956	336	2,292

※その他の魚種：コショウダイ，ヘダイ，フエフキダイ類 等

ウ　マダイ・チダイの月別漁獲量

令和６年の月別漁獲量は，６月が多く，合計 593kg で年間(1,956kg)の 30%を占めた。

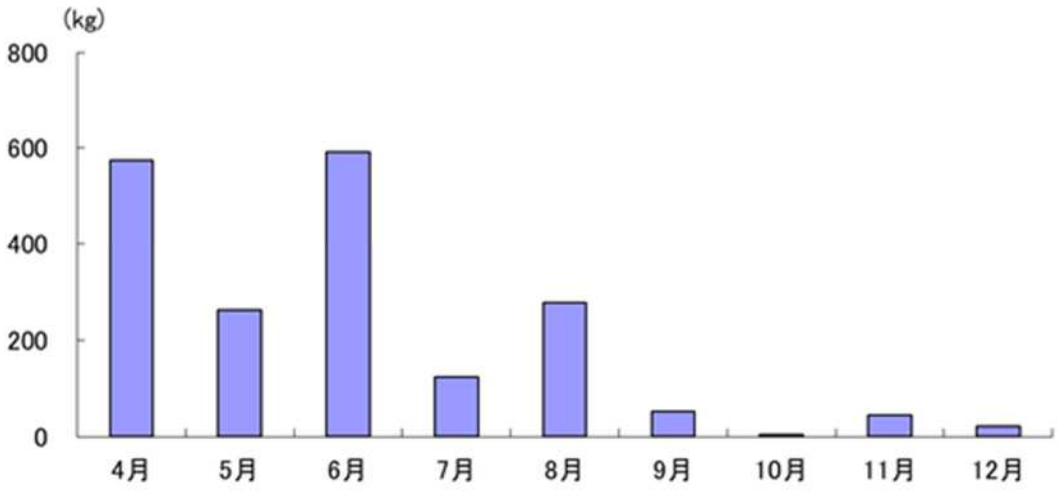
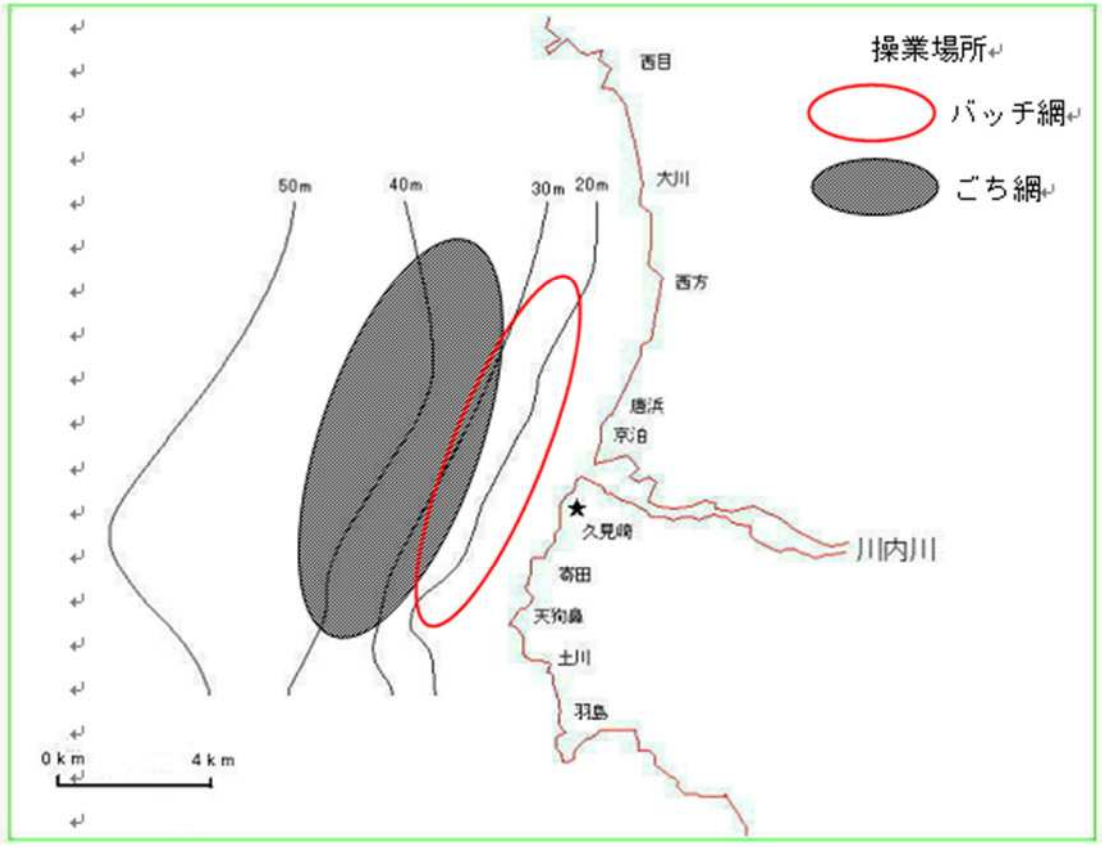


図 14-3　令和６年ごち網標本船月別タイ類漁獲量

（参考）　　バッチ網・ごち網漁場



鹿児島県商工労働水産部水産振興課
〒890-8577　鹿児島市鴨池新町 10 番１号　　電話　099-286-3426
鹿児島県水産技術開発センター
〒891-0315　指宿市岩本字高田上 160 番 10 号　電話 0993-27-9200